

折合

おれ あい



可愛らしいお花が
路線バスの終点を飾っている

折合の奥には広大な国有林があり、そこでの山から南川口まで、木材運搬のため、の軌道が走っていた。それもディーゼル機関車が貨車を引つ張って走る本格的な鉄道である。折合の奥には広大な国有林があり、そこ

昭和23年に高岡郡窪川町に編入されるまで、折合は幡多郡大正町であった。したがって、昔から中津川地区とのつながりの深いところである。さて、ここは古くから林業が盛んであった。昭和30年頃まで、折合の奥の山から南川口まで、木材運搬のため、の軌道が走っていた。それもディーゼル機関車が貨車を引つ張って走る本格的な鉄道である。折合の奥には広大な国有林があり、そこ

り開けたりを繰り返しながら、檜生原地区を経て、いよいよ「山に入った」と感じ始めたあたりから折合である。南川口からは車で15分、7〜8kmは走っただろうか。路線バスの終点があり、その周囲に可愛らしい花が植えられていて、地区に暮らす人たちの息づかいを感じる。ここからほんの少し行くと道路の舗装も終わり、その奥は山また山である。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山と折り合うように暮らしている。今では往時を想像できる形跡は見当たらない。静かで美しい山間に、5世帯・14人の人々が地区の名の通り、山と折り合うように暮らしている。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。

山の上まで敷かれていたのである。ただし、山を螺旋状に登っていくのではない。崖と言っても良いくらいの急斜面を直線で敷いていたのだ。ジェットコースターどころの角度ではなかったらしい。貨車はそこをどうやって登ったのかというと、山の上まで2対のレールを平行して敷き、片方は山の上、もう片方は山の下にセッティングし滑車を使ってワイヤーで繋いでおく。ちょうど井戸のつるべの状態。山の上で木材をいっばいに積み込んだ貨車を山の下に向かって下ろしていくと、その重さによって山の下にあった空の貨車が引つ張り上げられるという仕組みである。これは「インクライン」という方式で、実は山岳地帯での材木の運搬などの産業用に建設された鉄道では最も多用された方式であり、また、産業用に限らず観光地のケーブルカーやロープウェイにも採用されている。ただ、そんな大掛かりな仕掛けの鉄道がこの井細川沿いにあるというこのことは少し驚く。



井細川の最上流は、まさに清流

町のうごき	(9月30日)		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出			
	男	女	計	世帯数	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
	8,702	9,788	18,490	8,684	-5	-15	-20	7	9	16	13	17	30	11	12	23

四万十川の
水質状況

	適正值(mg/l)	10月2日
リン酸	≤ 5.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.440
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.500
化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定範囲以上

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/>
※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部